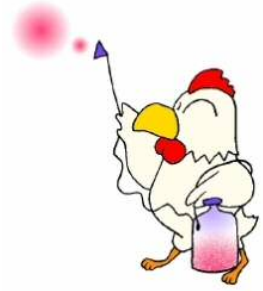


渡り鳥飛来のシーズンとなりました

鶏舎周囲の環境整備をお願いします！



長い雨が終わり、11月に入ると気温が一段と低下する予報です。管内の池や川にも、カモ等の渡り鳥がちらほら観察されるようになりました。今シーズンも昨シーズン同様、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）ウイルスを保有した渡り鳥が飛来し、家きん農場でのHPAI発生が危惧されています。

8月に日本野鳥の会の方の講演を聞く機会がありました。まずお話があったのが、「**渡り鳥は鶏舎には入らない**」ということです。HPAIウイルスを日本に運んでくるのが渡り鳥であることは間違いありませんが、そのウイルスを農場に持ち込んでいるのは、人や車両、ネズミ等の野生動物の他、スズメ等の野鳥が考えられます。

日本野鳥の会が、過去のHPAI発生農場で実施した野鳥の観察結果では、鶏舎周辺では下記のようなことが観察されました。

- ◎ 野鳥は鶏舎と鶏舎の間のスペースに最も長く滞在する。
理由としては、鶏舎に遮られて風がなく、日当たりが良く、鶏舎間の草の種や虫を捕食できるため。
- ◎ 水たまりがあるとそこにもエサとなる虫がいる。
- ◎ ハゼ等の実のなる木があると、それを求めて野鳥だけでなくネズミも集まる

対策としては・・・

- ◎ 鶏舎間の草刈り
- ◎ 特に実のなる樹木の早めの剪定
- ◎ 敷地内で水が溜まりそうな凸凹をなくす
- ◎ 堆肥の適切な処理

本格的な寒さ到来の前に、野鳥を寄せやすい農場になっていないか、今一度農場内を確認してみませんか？環境整備について疑問がある方は、家畜保健衛生所までお問い合わせください。

鹿児島県の養鶏場→
鶏舎周辺に余計なものがなく、周囲に消石灰がまんべんなく撒かれている
(農林水産省 HP より)

